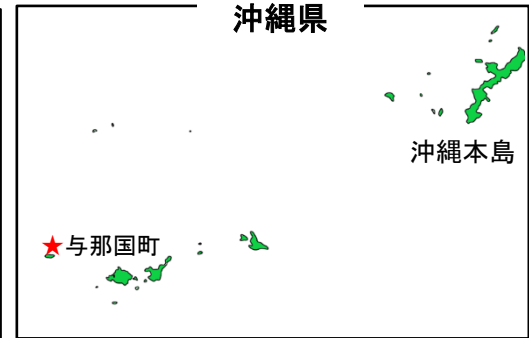


15の春食育教室(食育ボランティア連携)

事業実施主体:与那国町(沖縄県)

- 与那国町の食文化においては与那国産の野菜や魚と繋がりが深く、食文化の継承は地産地消にも繋がる。
- 食文化を次世代に継承していくためには、家庭だけでなく、学校等の地域の多様な関係者による活動が必要である。
- 与那国町には、(高校がないため)中学校を卒業した子どもたちは進学や就職等で島を離れることになる。そのため町では、中学3年生を対象に地域の食育ボランティアから与那国島の郷土料理を伝える教室を実施することで、次世代の食の自立を支える。



【取組の内容】

- ・ 食育ボランティアと連携し、町内中学3年生を対象とした、食文化継承と食の自立に向けた食育教室「15の春食育教室」を開催。



- ・ 食育ボランティアから郷土料理の調理実習、役場栄養士から自炊の講話を行った。会食の時には保護者も招いて一緒に食べ、どんな風に作ったのか等会話をしながらおいしくいただいた。

【メニュー】

じゅーしー(炊き込みご飯)、クシティ(パクチー)入りかきあげ、パパイヤチャンプルー、与那国みそ汁(与那国産米味噌を使用)



【取組の成果】

- ・ 教室の最後に、中学生全員が感想の発表を行った。
- ・ 「包丁の使い方が難しかった。」「クシティ(パクチー)が苦手だが、意外と食べられた。」「島を出てからもやってみたい。」「自信になった。」等の感想が聞かれた。
- ・ 本取組は、地元の野菜や郷土料理への理解を深める場となり、食文化の継承を図ることに繋がった。

※ 「15の春食育教室」指導用資料は、島を出ても使ってもらえるよう冊子として製本し配布している。

- 郷土料理等を次世代へ受け継いでいる割合の増加
事業実施前: 50.9%
→事業実施後: 58.0%

- 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす
事業実施前 51.6%
→事業実施後 68.7%

